

元気で躍進
地域経済

豚用保冷剤を実証実験

明野高校と業 夏場の母豚受胎率上がるか
三重化学工業

松阪市大口町の三重化学工業(株) (山川大輔代表取締役社長) で29日、伊勢市の県立明野高校生産科学科畜産専攻(3年生



8人)の生徒が同社の保冷剤技術を使って母豚(ぼとん)用の保冷剤を試作した。夏場に受胎率が低下、生まれる子豚の数が減ってしまうのは夏ばてが原因だと推察し、体を冷やして快適にすれば出産頭数が増えるのではないかと考えた。生徒8人がおのおの保冷剤の形状を考案した中か

指導した玉置係長(左)と西田さん(右)、平松君(大口町の三重化学工業本社で

この日は畜産コースを受け持つ神野亮大教諭(32)と、西田友菜さん(17)、平松巧羽(こう)君(18)が午前10時半すぎに同社本社のオープンイノベーション・スペース「ミエラボ」に到着した。同コースが課題研究の授業の一環でミエラボに来るのは1月、2月に続いて3回目。2月まではこの春卒業した先輩3人も一緒。前回は手のひらサイズの小さな保冷剤作りを体験した。

授業の一環でミエラボに来るのは1月、2月に続いて3回目。2月まではこの春卒業した先輩3人も一緒。前回は手のひらサイズの小さな保冷剤作りを体験した。

す首巻きタイプ(長さ89センチの中央部分に12センチの突き出し)を考案した。同社の玉置和也・品質保証部係長(43)ら社員2人が指導。同社の通常の製品の何倍も大きく、複雑な形状の保冷剤を、2時間近くかかって完成させた。重さは西田さんの約8キ、平松君のが約1・1キ。洋菓子に付いている保冷剤が30キ

40キといひ、西田さんのはその200個分以上。同社の製品で最大級は犬用ペットシートの3キで、それと比べても3倍近い大きさ。西田さんは、この形にした理由を「豚はきれい好きで、トイレも場所が決まっています。移動する。その習慣を利用して『冷たい場所はここだよ』と思

った。豚は青系の色が見えやすいので、冷たい場所だと認識しやすいように青色にした」と。養豚家を目指している平松君は「自分自身の経験から後頭部を温めたり冷やしたりすると全身に伝わる気がするので、まず後頭部を冷やそうと思

い」と目を細めた。試作品がうまくいかなければ、別の形状でチャレンジする。夏に実証実験した結果に考察を加え、年内にまとめることにしている。

2023年5月31日 夕刊三重